

年頭挨拶

岩手県知事 達増拓也



年頭に当たり、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

一般社団法人岩手県測量設計業協会及び会員の皆様方におかれましては、設立当初から、岩手県の測量設計業界の健全な発展を図るため、会員企業の技術力の向上、品質の確保や経営基盤の強化等に努められるとともに、公共事業推進の重要な担い手として、社会資本の整備や災害復旧等に多大な御貢献を賜り、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災津波の発災から間もなく12年を迎えようとしています。この間、会員企業の皆様の御支援をいただきながら、社会資本の復旧・復興に向けた取組を各地域で進めることができ、国が整備を進めてきた復興道路が令和3年12月に全線開通し、県が整備を進めてきた復興支援道路及び復興関連道路は、令和4年7月までに計画した58か所全てが完成したほか、海岸保全施設は、令和4年度までに計画した142か所のうち、141か所で整備が完了する見込みです。

また、本県にも大きな被害を及ぼした平成28年台風第10号災害や令和元年東日本台風災害、そして昨年7月、8月に発生した大雨災害に際しましても、発災直後から出動し、被災状況の把握や災害査定への申請に向けた測量設計等に迅速に対応され、被災者の生活基盤の早期回復などに御尽力いただきましたことに、改めて深く感謝申し上げます。

さて、県では、「いわて県民計画（2019～2028）」に基づき、東日本大震災津波からの復興に最優先で取り組むとともに、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の計画的な推進により、安全・安心を支える社会資本の整備や老朽化対策に取り組んでいます。

測量設計業は、社会資本整備を始め、激甚化・頻発化している自然災害や、老朽化が進む公共土木施設の維持管理への対応等、県民の暮らしの基盤である社会資本の品質を左右する重要な業務であり、県民生活の維持・向上や地域の発展に欠かすことのできない役割を有しており、その期待は、一層大きくなっています。

一方で、新型コロナウイルスの流行やウクライナ危機、物価高騰など、建設業界を取り巻く環境は大きく変化しております。

こうした状況にあっても、「県民の豊かで安全・安心な暮らしを創り、守る」という、地域の建設企業が担っている役割を将来にわたっても果たしていけるよう、県では、建設企業等が一体となって取り組む施策を示す「いわて建設業振興中期プラン2023（仮称）」の策定を進めているところです。

今後とも、県民生活の安全・安心や快適な暮らしに寄与する、より質の高い社会資本を提供できるよう、岩手県測量設計業協会及び会員の皆様には、なお一層の御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、一般社団法人岩手県測量設計業協会のますますの御発展と会員の皆様方の御健勝、御多幸を心から御祈念申し上げ、新年の挨拶といたします。